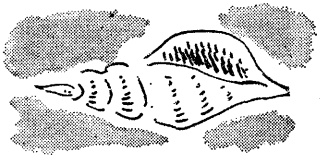
ていて楽しそうに思えた。ひとしが、放りあげた時、ひとしより高い位置で、ハンカチをとり放りあげた。ひとしも、必死につかもうとする。教師は、とられまいとする。このようにしてしばらく遊んだ。こんな簡単なことでもやってみると面白いんだなあと感じた。そのあと、細長い紙に、〝ひとし〟と書いては、何枚ももってきてくれた。

「先生にお手紙くれるの？　うれしいわ」というと、にこにこして、次には絵をかいてもってきてくれた。

◇　◇　◇

ひとしは、無口で今までは積極的に教師にかかわっていないし、どう接したらよいかと考えていたところであった。このように短い時間ではあったが、ちょっとしたかかわりが、教師と子どもを一歩ずつ近づけた原動力になったように思う。子どもと同じことをしてみることによって、何か通じるものが、出てくるということを感じた。

（四歳児　十月三十一日）



（カットも同書より）

幼児の教育　第七十四巻　第十号

十月号　©　定価二〇〇円

昭和五十年九月二十五日印刷
昭和五十年十月　一　日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼発行者　津　守　真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一
印刷所　図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします